

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	鹿児島工業高等専門学校
	大学等名1(代表大学等)※カナ	カゴシマコウギョウコウトウセンモンガッコウ
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	九州地方
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立高等専門学校
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	特別実習B
	学部・研究科等名	機械・電子システム工学専攻、電気情報システム工学専攻、建設工学専攻
	担当教職員名・役職	徳永仁夫(機械・電子システム工学専攻長)、逆瀬川栄一(電気情報システム工学専攻長)、川添敦也(建設工学専攻長)
	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	5
	受入企業等数	60
受入企業等名	株式会社Lucky Brothers&co.、国立研究開発法人物質・材料研究機構、日本原子力研究開発機構、北陸先端科学技術大学院大学、岩崎産業株式会社、株式会社ディスコ広島事業所、広域インターンシップ(大分県)、広域インターンシップ(福岡県)、広域インターンシップ(熊本県)、島津プレジジョンテクノロジー株式会社、富士アイ株式会社、九州工業大学カーロボ連携大学院、(株)堀場製作所、東洋エンジニアリング(株)、豊橋技術科学大学、早稲田大学大学院、株式会社jig.jp、株式会社エム・システム技研、サンリツオートメイション株式会社、オープンテクノロジー株式会社、新日鉄住金エンジニアリング株式会社、日本精工株式会社、DMG森精機株式会社、株式会社マイスターエンジニアリング、九州電力株式会社、ソニーデジタルネットワークアプリケーションズ株式会社、千代田フィリピン、チームラボ株式会社、セイコーエプソン株式会社、株式会社牧野技術サービス、文部科学省、日揮株式会社、メタウォーター株式会社、川田工業株式会社、NSプラント設計株式会社、国土交通省九州地方整備局、新日鉄住金株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、株式会社ザイマックス ほか	
インターンシップの分類	3.海外インターンシップ 5.他県をまたぐ広域インターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9. 中小企業でのインターンシップ 10. 地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	専門分野に関連する企業や各種機関、大学等において、提供されたテーマに基づいて実習を行う。実習内容としては、主に業務の一部を経験したり、課題解決型のワークを体験したりする。インターンシップ終了時に成果報告会を実施し、プレゼンを課す企業も多い。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	専攻科1年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本科目は専攻科1年次生を対象に、専門科目の選択科目として開講している。2週間以上(実習時間75時間[450分×10日]以上)のインターンシップに参加した学生に対して2単位を付与している。	
3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい	

要素③	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ直前の8月に、外部講師による「事前マナー講習会」を実施。実践的なビジネスマナーの講習に加え、インターンシップ参加の目的や心構え、注意事項などについても担当教員より指導を行っている。
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ中に日誌を作成し、事後の振り返りの材料としている。またインターンシップ終了後には、その内容や成果を報告書にまとめて提出させるとともに、学内で発表会を行っている。実習内容や得られた成果について振り返りの機会をもうけることで、自己への深い考察を促し、今後の学びや就職活動に活かせるよう指導している。	
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)		
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	webシラバス上にルーブリックを掲載し、公開している。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間10日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	原則、1社で2週間以上(実習時間75時間[450分×10日]以上)のインターンシップを実施している。	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ期間中、学生が毎日記入している日誌について、受入先の担当者に確認と所見の記入をお願いしている。また、インターンシップ終了後、勤務態度、意欲、研鑽努力、周辺との融和、責任感、協調性などの所見をもとに4段階で全体評価をしていただき、成績評価に加味している。	
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=50
問い合わせ先	大学等名	鹿児島工業高等専門学校
	担当部署名	学生課教務係
	担当者役職名	教務係長
	担当者氏名	柳 詒 豪
	電話番号	0995-42-9014
	メールアドレス	kyomu@kagoshima-ct.ac.jp